

男女共同参画推進連携会議「次世代への働きかけ」チーム第3回会合議事概要

1. 日 時 : 平成28年12月5日(月) 15:00～17:00
2. 場 所 : 中央合同庁舎8号館4階416会議室
3. 議 題 : 1. チーム構成団体等における取組事例
 - ・中学生向け キャリアデザイン啓発事業
有限会社Branches代表取締役 権藤 光枝議員
 - ・女子中高生向け 法曹の仕事と働き方に関するシンポジウム
日本弁護士連合会男女共同参画推進本部事務局次長 佐藤 倫子議員2. 地方自治体における取組調査結果について
3. 意見交換

4. 出席者 :
(有識者議員)
飯田議員、大崎議員、権藤議員、徳倉議員、林議員、山屋議員

(団体推薦議員)
田丸議員、浅野議員、降旗議員、後藤議員、小栗議員、柿沼議員、赤池議員、海野議員、糸数議員、川口議員、川野議員、葛西議員、金野議員、鳥澤議員、西立野議員、宮木議員、名取議員、小林議員、佐藤議員

(事務局)
武川 内閣府男女共同参画局長、岡本 内閣府大臣官房審議官(男女共同参画局担当)、
大川内 内閣府男女共同参画局政策企画調査官

5. 議事概要

○議題1のチーム構成団体等における取組事例について、資料1に基づき権藤議員より発表があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・福岡市教育委員会との連携状況はどうなっているか。
→福岡市男女共同参画課からの依頼を受けて実施したものであり、教育委員会とはあまり連携が取れていない。また、事前の打合せや終了後のフォローがあまりできていないのも実態である。
- ・教員自身が男女共同参画に向けた取組に苦勞している実態が明らかになったとのことだが、それを踏まえ、今後の予定についてお伺いしたい。
→教員や学校によっても温度差があるが、男女共同参画に向けて具体的にどうしたらよいかわからない、他にも子供たちに教えることが多いため、なかなか時間が割けないという実態があると感じる。今後については、これから具体的に議論することとなるが、継続的に実施する予定である。
- ・町長をしていたときに、男女共同参画に関して、教育委員会との意識差を感じた。首長が男女共同参画の視点を持っているだけでも、様々な影響を子供たちに与えられると思う。また学校においても、男女共同参画のための特別な授業等を設けなくても、教員の一言で様々な影響を

子供たちに与えられると思う。市の教育委員会と連携し、男女共同参画の意識を学校の中に組み込んでいけたらよい。

- ・次世代への働きかけは、次世代を育てる人たちに働きかけることも重要である。1時間男女共同参画についての授業を行うだけでなく、その後、日常の中でその意識を教え込むことが必要である。
- ・本事業はカリキュラム上、どのような位置づけで行っているのか。
→学校によって異なるが、人権教育として組み込んでいる場合もある。また、家庭科の授業として柔軟に対応している場合も多い。

○議題1のチーム構成団体等における取組事例について、資料2に基づき佐藤議員より発表があり、質疑応答を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・ロールモデルを見せることが重要であると感じた。中学2年生では職場体験がカリキュラムに組み込まれ、その前にキャリア講話を行うことが多い。子どもの学校では、これまでは外部講師に来ていただいていたが、学校からPTAに、保護者で対応できないか相談があった。検討の上、保護者から暮らしや働き方についての講話を行ったところ、子供にとって働くことがより身近になったと感じた。
- ・区立中学校への周知がないようだが、周知にあたっては、情報格差が少なくなるとよりよいと感じる。
→区立中学校は2000校ほどあり数が多いため、リスト化や直接の働きかけなど、費用対効果を考えると対応が難しい部分があった。
→リスト化については、場合によっては、内閣府内の他部局や文部科学省などに協力を仰ぐことも可能であるため、今後検討したい。

○議題2の地方自治体における取組調査結果について、事務局より、内閣府ホームページへの掲載案についての説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・事例が多く、地方自治体同士がお互いの取組を知る機会があつてよいと思うが、パスワードを使つての編集や、意見の書き込み等の機能があると、双方向のやりとりができるようになり、ウェブサイト自体がアクティブなものになると思う。
- ・一覧にまとめられていると参考になる。まだ提出のない都道府県があつたら、働きかけをして、全国の様子が把握できるものにしてほしい。
- ・取組について、実施した結果、その後どうなったかも記載されていると、今後の参考となりよいと思う。
- ・若年層への働きかけについて集計するものであれば、取組の対象者について、一般市民向けなどは除き、若年層に向けたものに限った方がよいと思う。
- ・次世代の年代の人たちが企画や運営した取組があれば、その本人たちから直接お話を伺ってみたい。
- ・教育委員会としっかり連携している事例があつたら、お話を伺ってみたい。
- ・学校教育における人権教育や男女共同参画について、地方自治体の方針等があればお伺いしたい。
- ・自立や社会に踏み出せない女性向けの講座や、父子手帳、男女共同参画に向けたメディアリテ

ラシー講座などについてお伺いしたい。

- ・子供たちが必ず人権教育を受けられるよう、小学校、中学校、高校で人権教育が必修科目になるよう働きかけてほしい。
- ・学校現場における男女共同参画に関する取組について、文部科学省に現在の取組状況や課題などを伺いたい。

○議題3について、チームメンバーで連携したイベントの開催についての意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・中高生向けのイベントで、保護者も参加できるイベントの開催が有効であるとする。
- ・次世代の年代が企画、運営を担っているイベントが実施できるとよい。アメリカ大使館やユネスコでも若者が中心となって会議やイベントが行われている。イベントの舞台を提供し、手法について子供たちと意見交換する場を設けるとよい。
- ・若者主体のイベントは民間団体主催のことが多い。WAW!2016では、スペシャルセッションの一つのテーマがユース・テーブルとなっており、プラン・インターナショナル・ジャパンが企画運営している。若者が主体となり、国内およびグローバルな視点の双方から、ジェンダーの問題について議論する予定である。
- ・次世代に働きかける人たちへの意識改革が必要。幼稚園、小学校、中学校、高校、大学までの教職員を集め、好事例などを集めたシンポジウムを実施してはどうか。
- ・ロールモデルが身近にいないとイメージがしづらいため、様々な職種の人達を呼んで、参加した若者が将来層を描けるよう、日本弁護士連合会のようなシンポジウムを実施してはどうか。
- ・CSWに参加したインターンシップ生に、内閣府との共催事業にも参加してもらったが、彼らのような若者に何を期待するか、どんな将来を作るべきかといった明確なテーマを伝えることが重要であると感じた。
- ・キャリアパスやデートDVなどは現実的な問題として若年層が認識していると思うので、テーマとして取り上げてほしい。

○最後に徳倉コーディネーターより、今後のスケジュールについて、平成29年4月頃に会合を開催する予定である旨の連絡を行った。

以 上